

かずさの博物誌

アカボシゴマダラ

～春に白化型～

文・写真／成田篤彦

2016.9.20

昨年の秋、アカボシゴマダラが庭の熟した柿のジューズを吸っていました。

このチョウには白地に黒く太い筋模様がついています。

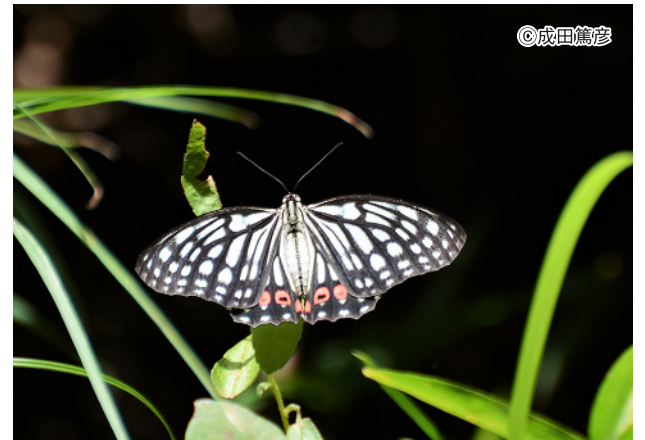
後ろばねに、とても目立つ赤い斑紋があります。

はねが一部壊れていました。もう寿命が近いのでしょうか。

アカボシゴマダラには世界に二亜種があります。日本の奄美大島などにいる亜種は、後ろばねの赤い紋が完全な環になっています。一方、中国大陸から朝鮮半島に分布する亜種は不完全な環になっています。

上総のものは中国大陸のそれでした。

このアカボシゴマダラは二十世紀末に関東地方で、誰かが中国産のものを飼育して野に放したか、あるいは逃げだしたものが、関東一円に広



©成田篤彦

▲はねを開いたアカボシゴマダラ=2016年8月6日 木更津市

がたと推測されています。

さて、今年の五月晴れの日、小櫃川の河川敷のヨシ原で「モンシロチョウか？それにしては大きい」と思

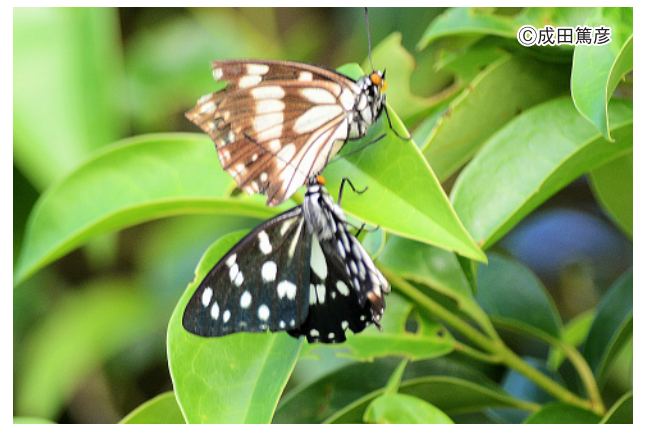
いながら、シャッターを切りました。拡大してみると筋は黒いのですが、地は真っ白です。春に現れるアカボシゴマダラの白化型です。

実は数年前、千葉市で虫好きの集まりがありました。その時、船橋市の方がこの白化型の標本を持ってきました。

「このチョウは何？」と専門家も含めて皆んなで頭をひねりました。

図鑑を丁寧にくわいていくと神奈川県産の白化型が載っていましたので、やっとわかりました。

当時、アカボシゴマダラが千葉県にも生息し始めたのは知っていました。



©成田篤彦

▲ゴマダラチョウ=2016年8月12日 木更津市



©成田篤彦

▶アカボシゴマダラ=二〇一五年十月六日 木更津市



©成田篤彦

▶アカボシゴマダラ白化型=二〇一六年五月二十四日 木更津市

memo

アカボシゴマダラ

チョウ目 タテハチョウ科

この二種が同じ食物を取り合っ
て競争し、アカボシゴマダラがゴ
マダラチョウを滅ぼすのでは？と
心配されています。今のところ、
上総のゴマダラチョウは健在で
す。

それにしても、外国産のチョウ
を野に放すなどはやってはならな
いことです。

改めて、外来種の侵入にこんな原
因もあったのか！と驚きました。

成虫の前翅長四十五〜五十二ミ
リメートル。繁殖期五月〜十月。
幼虫はエノキ類を食べる。春型は
かなり白化する。朝鮮半島南部、
台湾などに分布。

参考文献 拙著「房総の草木虫

魚一九二号」千葉日報二〇一四
年十月十九日

白水隆著06「日本産蝶類標

準図鑑」学研